

## 「新潮45」8月号寄稿について

「新潮45」8月号の発売直後に、当事務所宛に殺害を示唆する内容のメールがあり、赤坂警察署に被害届を提出し、捜査をしていただいております。警察とも相談の上、私自身や家族の身の安全を優先し、容疑者の検挙までは本件についての発言を差し控えております。しかし、私の寄稿を発端として、本来の意図とは大きくかけ離れている議論になっておりますことに心を痛めており、被疑者が警察署に出頭し、取り調べ中との情報を確認致しましたので、コメントさせていただきたいと存じます。

私の「新潮45」8月号への寄稿は、LGBTが政治利用されることへの危惧から、LGBTに関する報道の在り方についての疑義を呈することを企図したものであり、全て私の個人的な意見です。元より多様性を相互に尊重することは当然のことだと認識しており、当事者の方々の人権を否定するつもりも、偏見をもって差別する意図も一切ございません。ましてや報道等で流布されているような障害者や高齢者、難病の方、子供をもっておられない女性を差別するような言及も一切しておらず、そのような意図は全くございませんことはぜひご理解いただきたいと存じます。

また、インターネット上で私がLGBTについて私見を述べている動画が拡散されておりますが、当該の動画は約3年前に撮影されたものであり、その後自由民主党のLGBT理解増進法案について学び、現在は理解を深めております。

寄稿文にも書きましたとおり、私は、日本社会はもともと寛容な社会であり、性的マイノリティとされる方々に対しても、思いやりや気配りの延長として、必要であれば法整備を行い、お互いに違和感なく生活できる社会を構築することが必要だと考えております。またその目的でもし予算措置が必要になった場合は、効果と優先順位を当事者の方々との対話を通じて慎重に検証し、総合的に判断して実行すべきとの立場です。これが政治的・イデオロギー上の対立に繋がるものになってはならないと考えております。

しかしながら、当事者を差し置いてLGBTを政治利用すべきでないという思いや、政策の優先順位について私見を述べる目的であったにも関わらず、不用意に「生産性」という表現を用いたことにより誤解や論争を招いてしまったことや、結果として不快と感じたり、傷付いた方々がいらっしゃることを重く受け止めております。

また、自由民主党から「問題への理解不足と関係者への配慮を欠いた表現がある。今後、十分に注意するように」とのご指導をいただいていることも真摯に受け止めております。併せて、議論の展開を通じて、「性的指向・性自認」と書くべきところを「性的嗜好」と表現したことについて、党の「性的指向・性自認に関する特命委員会」より「誤りである」とのご指導をいただきました。この問題について国会議員としてもっと知るべきことが多いと痛感したところであります。今後は謙虚に前向きに政治活動に取り組み、当事者の方々の声もお聞きしながら、党の特命委員会等における議論にも積極的に参加し、LGBTの方々への理解増進はもとより、差別やいじめのない社会の実現に向けて努力してまいります。

言葉ではなく行動で誠意を示すことで、国会議員としての責務を果たしてまいります。

平成30年10月25日

衆議院議員

杉田水脈